

南部高龍神分校

2年生が就業体験

地元企業など14事業所で

田辺市龍神村安井、南部高龍神分校の2年生30人がこのほど、インターンシップ（就業体験）で3日間にわたって龍神村や周辺の事業所などを訪問した。

就業体験を身に行けてもらうというのを目的に、毎年2年生が体験している。スーパーマーケットや保育園、印刷業、老人ホーム、森林組合などはこの事業所に分かれ、さまざまに訪問している。

さまざまな業務を体験した。

龍神村西の一龍神自然食品センターには4人が訪問。シイタケやナメコの薪を木に横受けたり、梅の果肉をベースト状に加工したりといった作業を体験した。

梅ジャムを瓶詰めする作業では、梅と砂糖を一緒に漬け込んで加工したジャムを、煮詰めた梅を瓶に一つ一つ丁寧に詰めていった。

龍神村一社（17）は「職場の雰囲気が高く、みんな親切に教えてくれるので楽しい」。

龍神村茶業さん（11）は「初めて経験することはかなりなので、新鮮で面白い。ジャムを詰める前に瓶を丁寧に消毒するなど、一つの商品が出来上がるまでにたくさんの方がいることが分かり、勉強になった」と話した。

龍神村一社（17）は「職場の雰囲気が高く、みんな親切に教えてくれるので楽しい」。



梅ジャムを丁寧に瓶に移る生徒（田辺市龍神村安井）

新試モデル材で研修中

にも後地に設置するという。東本庄生産者組合によると、龍神の山林を所有・管理する関係者では原木を伐採する権利を製炭者に売っている。ただ、近年、経済効果の

みなべ町議長長生産者組合（原正昭組合長）は21日、同町龍神の国民宿舎紀州路みなべで第8回総会を開き、2012年の事業計画を決めた。ウバメガシなどの法製材に穴

を開ける由生カシノナガキア（イムシ）による被害が県内でも広がってきていることから、現場視察研修を行うことなどを盛り込んだ。

原組合長は「昨年は東日本